

令和3年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和4年3月24日

学校法人駒場けやき学園 駒場幼稚園

1. 本園の教育目標

- 自ら感じ、考え、表現することができる子ども
- 心も体もたくましい子ども
- 友だちとかかわる中で、喜びを感じ、互いを生かしあうことができる子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- 感染症予防対応により様々な制限が生じる中で、幼児教育の根幹を常に教職員で確認しあい、園児のより豊かな生活と質の高い経験を実現していく。
- 感染症予防対応に継続して取り組み、園児と家族、教職員とその家族など、園に関わる人全体の健康状態を把握し、園を継続して開いていけるよう努める。
- 教職員が健全なワークライフバランスを保持したうえで職務に取り組めるよう、園は働き方改革を進め、教職員は労働時間の管理を各個人でも意識して取り組む。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

◎ 日常の教育活動および教育課程等について

- ・教育活動において幼児の思いが大切にされ、遊び中心の生活になっている。
- ・満3歳児から年長学年までの教育活動が、発達を基盤として段階的に行われている。
- ・保育で大切にしたいことを、教職員がお互いに理解するため、日常的に努力している。さらに深めていきたいが、そのためのまとまった時間をとることが難しい。

◎ 健康管理

- ・幼児の健康に関する情報は教職員間で共有され、適宜効果的に活用され得る状態にある。
- ・子どもの健康状態の把握やけがの様子、園での対応方法などは、その都度保護者と詳細に情報共有する意識を堅持していきたい。

◎ 働き方改革

- ・感染症予防対応により、勤務人数が減少する期間が増えた。出勤者の健康を維持するためにも、その期間の業務の縮小や退勤時間を早めるなど配慮が必要である。
- ・教職員各人も退勤時間を早めたいと思っているが、やるべきことが多くどうしても遅くなる。労働時間の管理にはもっと園からの強制力があってもよいのではないかと。

4. 総合的な評価結果

- ・感染症予防への対応の中で、幼児期に大切なことは何かをあらためて考えさせられ、また一人ひとりの園児とその家族、また教職員とその家族の健康への配慮を続けた結果、行事や園の生活を見直すことにもなった。

- ・同時に新たな業務が増え、教職員のワークライフバランスの問題が一層緊急な課題となった。

5. 今後取り組む課題

- ・マスクの着用や、人との関わりの経験が減少していることからくる影響を、どのように補っていくことができるか、注意深く様子をとらえつつ、幼児期ならではの豊かな経験ができる幼稚園生活の実現に、引き続き努めていく。
- ・感染症への対応は引き続き慎重に取り組んでいくと同時に、地域に開かれた教育事業など、縮小してきた園の教育活動に、今後どのように取り組んでいくことができるかを検討していく。

6. 学校関係者評価（令和4年3月19日 評議員会内で実施）

- ・駒場幼稚園では、遊びを中心とした幼児教育の実践がされていて、幼稚園教育要領を実現している。しかし外部評価を積極的に受けることも重要である。高等学校以上の学校評価では生徒評価が行われる。園児自身に意見を求めるのは難しいが、卒園生や卒園生の保護者に意見をもらう方法を工夫してみるとよい。
- ・働き方改革は、管理責任者が強いリーダーシップをもって推進する必要がある。小さなことから具体的な行動改革をただちに開始すべきである。